OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	創立前夜あれこれ
Author(s)	向井, 正也
Citation	デザイン理論. 1981, 20, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52631
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

創立前夜あれこれ

向井　正也

京都大学楽友会館１階レストランの配善室にくっついた「北室」とよばれるチッポケな集会室がある。広さは約６×８ｍほどもあろうか，中央に大きな矩形の卓子が一つ，その長辺に４名づつ，短辺に２名づつ，計12名用の椅子で囲み，上部に簡素なシャンデリアが２つ。この室で，今を去る20年余の昔に開かれたある会合が，はしなくも途中で意匠学会の発起人会に切りかえられるという劇的な歴史の一幕があった。

もはや茫々として月日の程も定かではないが，その年だけは生涯忘れ得ぬ1959年，初秋の夜と記憶している。だがそもそも当初の会合自体が，また一つの発起人会であったことも面白い。それは勝見勝氏をリーダーとする東京のデザイン学会が関西に支部をつくろうと，かねて勝見氏とは友人関係にあった故井島前会長を中心にすえて，その組織方を関西在住の会員たちに依頼したことによるもので，結果的には当時京都学芸大教授だった故重成基先生を筆頭に，伊東一信氏や私などが，この仕事に一役かわされる破目となった。われわれがどのようなプロセスで，この日本デザイン学会関西支部創立の発起人会を実現にもちこんだかは，もはやそれほど審ではないが，ともかくもその当夜，この北室は関西デザイン界の錚々たる人士の顔合せによって一段と華かさを加えたことを思い出す。

ところで，この東の学会のための発起人会が，西の学会のための発起人会に，突如として転ずることになったのは，他でもなくもっぱら当初の会合の中心人物，井島先生の鶴の一声によるものだったことは，私がこの目で見この耳で聞いた間違いない事実である。「なにも東京と一しょにやらんでも，こっちはこっちで別にやったらええやないか」

井島先生はやはりお山の大将で行きたいのかな，と当時私は思い，またある意味でそのことは事実だったが，それは本学会にとって何よりも幸であったと今にして思う。

たえず波風が立つ上に，ギスギスとアカデミックに硬直気味の「東の学会」とは異なり，研究者も，デザイナーも芸術家もすべておうように包摂した，和気あいあいたる横のつながりの形式，デザイナーのサロンであると同時にデザインの学会でもある，このアンビギュアスで複合的な，マレに見る本会の組織と運営の成功は，一にかかって井島先生の人柄によるものだったとつくづく思う。あのふっくらとあたたかみのある抱擁力の偉大さを痛感するのである。

ついでに私事に亙る因縁話ながら，この年，1959年の春私は父をうしなっている。

戦前戦後に亙って，わが国デザイン教育の草分けの一人だった父は，主としてこの関西の地で，教え子として幾多のデザインの俊秀に恵まれたことをつねに語ったものだが，その名は聞いてもその人を見なかった私は，あたかも父のみちびきででもあるかのように，その歿年の秋に発足した本学会のおかげで，これら多くのすぐれた人達とお近づきになり得た奇縁に，つね日ごろ感謝しているのである。